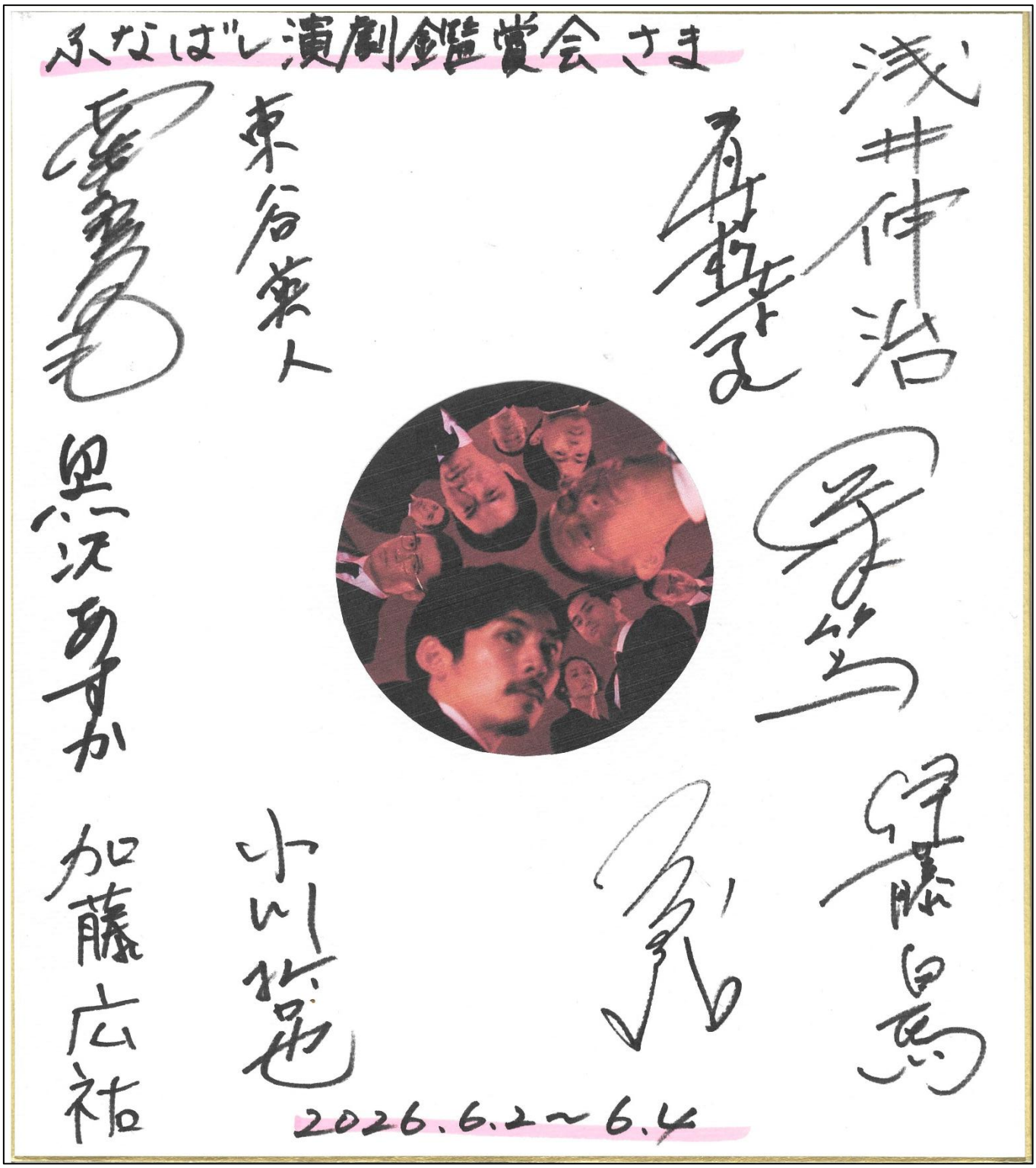
第223回　劇団チョコレートケーキ公演　　2026年6月

「帰還不能点」
感想文集

ＮＰＯ法人　ふなばし演劇鑑賞会



この芝居は、演劇鑑賞会で観たものでも一番に印象深いものでした。

ドラマの背景は、1年以内に観たNHKの「総力戦研究所」と、文芸春秋に掲載された異論（研究所長の人物像が実際と異なる）を読んでいたので理解は楽でした。

今回の芝居では事前の知識にない研究チームによる検証の内容や、最後に広島の惨状を見た岡田一郎のモノローグ、それに続く各人が個々に抱えた葛藤が描かれ、深みのある内容でした。

研究所の活動実態が伝えられない今日、事実関係は分かり得ませんが、恐らくそうだったんだろうという推察を可能にしてくれた点はありがたいものでした。役者さん全員の「ほとばしるような」熱演には大いに感動しました。

（ラブアンドピース　大関憲司　７０代）

今回の劇はとても面白く、歴史を知ることができ、良かったと思いました。

（ワディ&ホライズン
向後拓海　高校3年）

迫力ある素晴らしい舞台でした。ありがとうございました。

（ザッハトルテ　無記名　６０代　女）

長いセリフ、すばらしい！　（無記名）

「総力戦研究所」という機関があったことを初めて知りました。各分野のエリート達が、対米戦に至った経緯を語るだけでなく、必敗を予測しながらも、戦争回避のために行動できなかったことの負い目を背負う人々として描かれていました。

１９５０年代は、戦争で何かしらの負い目を背負いながら生きていた人がたくさんいたのだと改めて思いました。ラストで、皆が「戦争をするべきではない」と声を上げる場面に、日本中が「戦争はしない」と声を上げていたら、たくさんの人が亡くなることも、沢山の人が負い目に苦しむこともなかったのに…という思いが込み上げました。

声を上げられない日本の様々な状況が間違っていたのだと思いました。心に残った言葉があります。「みんなを救えなかったことは、一人を救わない理由にはならない」という山崎の言葉です。戦争で何もできなかったとしても、自分の背負っていることから目をそらさずに、目の前の人のために自分のできることをした山崎のように生き抜いた人もたくさんいたのだと思いました。（アマルフィ　木暮香苗　６０代）

圧巻でした。私の過去1！（無記名）

一人一人の個性がごちゃごちゃ、はじめはうるさかった。内容は心にしみました。

（無記名　男）

知っているつもりが知らない事情があって、少し驚きつつ、生きていくのに励みになりました。

（くるくるサークル　吉野洋子　７０代）

私は、幕張メッセでの武器見本市に反対する行動を通して、役人と話すことがありました。その時に感じる他人事のような、受け答えにもなってないような態度と、今回の演劇が重なってしまい、はじめ腹立たしかった。

後半、道子さんの話からぐっと一般市民の気持ちに入っていき、こんなに痛がっていることに誰も責任を持つことがないのはおかしくて、ほんと、役人に観に行ってほしいと思った。

（ＡＨＡ９　小林文子　５０代）

私は6月4日観ましたが、昨今の状況にぴったりで、兵士だけでなく戦地に向かわない官僚など、どの立場の人々も苦しむのが戦争だと改めて思いました。そして、終わった後まで心の傷を抱える人生と、繰り返したくない終わりの場面に涙が出ました。

（モッキンポット　小坂）

熱演、長いセリフは勿論台本がすばらしい。どんでん返しにつぐどんでん返し。突然違う役になる劇中劇。

演者のステージ上の位置取り、そのための動線がすばらしい！2時間以上、一気に見せる演者、裏方の皆さんの力は驚き。みんなに一回は見せたい。

あんな会議あったと知らなかった。勉強になりました。ありがとうございます。今後ともご活躍を！

（無記名　男　６０代）

私の好みの作品ではありませんでしたが、アンサンブルも含めた素晴らしい役者陣の圧倒的な熱量と、一人一人のしっかりとした役作りに深く引き込まれました。それと同時に、劇中の状況が、いま自分が働いている職場の現実と重なり、深く考えさせられました。後半の男女のやりとりには思わず涙するものがありました。

見事な演劇の力によって描かれた、組織の現実と人間の姿。いまの仕事や日常に通じるものを突きつけられた気がします。

（亜童夢　河合るり子）

始めから最後までずっと同じ舞台だったのが、とても印象に残りました。一人ずつの方のセリフも聞きやすかったです。（ハイネ　中川奈津子　６０代）

戦争中の会議から始まり、戦後の日本の出来事。変化と不幸、まるで映画の様でした。（ＹＭ　田中弘之　６０代）

戦争は政治の一種であり、それを望む（拒否しない）多数の国民がいる限り、必ず実行されるものだと思う。

大正８年生まれの私の母は、１２月８日の日米戦争の始まりを聞いて、「もやもやしていた気分が晴れた」と言っていた。石油などの禁輸に強い不満があったからだ。この芝居に感動できるのは、エリートの中に心から戦争を悔やんでいる山崎や岡田のような人がいたことと、山﨑道子の物語があるからだ。

国家の敗北よりも、もっと大事な事（人の命や暮らし）があると伝えている。もしも、総力戦研究所の研究結果が、「日本は勝てる」だったとしたら、この芝居は成り立つのだろうか。

劇団チョコレートケーキの皆様、今後もこのようなすばらしい芝居を創り続けて下さい。

（ハッピープリンス　春日井治　７０代）

耳が遠いのではっきりわからない言葉もありましたが、９０近くになって納得することも沢山ありました。次回も楽しみにしています。

（ＹＭ　田中弥生　８０代）

力強い演劇で感銘いたしました。’７８年と’７６年生まれの脚本家と演出家の手になるということで、どういう史実の検証がなされてるかと興味ありましたが、しっかり調べられていると拝見しました。ただ、総力戦研究所長の飯村中将をどう描くか（昨年ＮＨＫのこの題材と同内容の番組では、遺族がＮＨＫに猛抗議したとか）、本作も冒頭部分で役者さんが物真似の演技をしておったのですが、残念ながらセリフが早く理解できませんでした。

又、誰がどの人物を演じているについては、マフラー、傘などの目印で分かったのですが、他は分かりにくいと感じました。最後に、紅一点の山﨑道子役、黒沢あすかさん、それぞれの声色を違えて見事でした。（夫の山崎氏が惚れた？のもむべなるかな）。

（富士桜　朝日　崇　７０代）

内容の難しい芝居でしたが、演者のすばらしい演技に惹きつけられ、最後まで観られました。（いつもは居眠りも？）開戦に至るまでの経緯等がはっきり分かり、戦争は国民が回避しなくてはならないことを改めて感じました。脚本もすばらしいと思いました。

（Ｓ・Ｓ　８０代　女）

『治天の君』で衝撃的な感動を受けて以来、劇団チョコレートケーキの例会には格別の期待を持っていました。

その期待に違わず、舞台から目を離せない展開に“鑑賞会会員でよかった”“ふなばし（千葉市民会館）で観られてよかった”と実感する濃密な２時間余りでした。１０人の役者が出ずっぱりで入れ替わりながら演ずる劇中劇の斬新な仕掛け。これこそ脚本の力、演出の力、役者の力が三位一体となっての結実ですね。生の舞台の醍醐味でした。テーマはシリアスなのに、あまりにも見事な演技の連係プレーに思わずくすっとしたり、持ち物や着る物で人物を特定する手法に感心したり、とエンタメ的にもじゅうぶん楽しめました。世界のあちこちで、理不尽な他国への侵攻、そして終わりの見えない戦争が続いています。いつの間にか、当たり前のように「同盟」とか「自衛」とかが声高に報道される昨今、“なぜ、止められなかったのか”がまさに今、現在形で私たちに問い掛けてくる『帰還不能点』でした。加えて、会報が鑑賞の助けになりました。説明や解説がとても役に立ちました。担当された渡辺さん、井澤さんのご苦労、運営サークルの皆さんに感謝です。ありがとうございました。

（アプリコット　三浦文子　７０代）

前半は「何おじさんたちでお芝居ごっこを楽しんでいるんだ！」とムカつきましたが、後半、道子さんと山崎さんの話、岡田さんの独白を聞き、涙が止まらなかった。人間は間違うこともある。でもその結果に対し、どう向き合うか、人間としてどうあるべきかを問われる作品だったと思う。こんな風に「何もしなかったこと」を後悔したくない。最近の情勢を見るにつけ、「過去に学べ」と強く思います。

（ＡＨＡ９　谷口初江　５０代）

脚本を書かれた古川健さんが、４０代であることに驚きました。又、演出の日澤雄介さんも５０歳とはー。そして、演じてくださる役者の方々の熱演に感動一頻り。涙、涙でした。多くの方々に、今日の感動を味わってもらいたいと思います。いろいろな地域での公演、多くしてください。

その時代、時代に真摯に生きるということを考えさせられました。ありがとうございました。

（笑　安井和恵　８０代）

今回初の芝居を鑑賞しました。人が本当に伝えたい事が分かった気がします。面白かったです。

（演楽２７８４　小林　佑　４０代）

皆さんすごい熱演だと思いました。居酒屋で別れる最後、本当はみんな「こう言いたかった」と本音を言い合ったのが救いでした。

軍部の方が負けるからこの戦争は始めない方が良いと訴えても、首相以下大臣たちが耳を貸さず、戦争して勝てば資源が手に入ることを優先させたのだということがよくわかった。国民一人一人の命のことなど何も考えていなかったのだと思う。和平ではなく何しろ奪い取るの考え方は、今の日本もそっくりなように思います。武器を持って他の国へ乗り込むことは、どんな理由をつけても、その国にとっては侵略でしかありません。戦争は二度としてはならないことと決めたはずですが(憲法で)、心配です。

(ひさし　廣瀬直美　70代)

戦争を止めることは出来たのでしょうか。考えさせられる話でした。

戦争は絶対反対。令和の現在も通じる話でした。

(りんごの木　無記名　女　60代)



戦争放棄した平和憲法のもとでいま自由に暮らしている我らからみると、どうしてすべてにおいて豊かなアメリカなどに戦争をしかけたのか不思議で、頭のとろい人たちに政治を任せていた愚かな日本だったと思わざるを得ない(いまは、大丈夫か?)。「総力戦研究所」という一般庶民には知られていない機関に英才たちを集め英知を絞っていたにもかかわらず、為政者たちは世界の状況を把握しきれず、愚かにも独・伊との三国同盟に突き進んでいった無能さには、いまさらながら呆れてしまう(ヒットラーの魔術にまんまと引っかかってしまったのか)。研究所の英才たちの終戦を挟んだほぼ10年間をそれぞれの苦労した姿をふくめて描き、戦前、戦後と演じ分けて、よくぞ「帰還不能点」という見事な芝居に創り上げてくれたことに感謝したい。これら為政者の無能ぶりの芝居を見ながら、溜飲が下がる思いがした。ところで、たった2時間イスに座っているだけで、腰というか尻というかが痛んでじっとしていられなくなってしまった(老齢の身の衰えかも)。そんな気がそぞろに芝居を楽しめなくなったころ、一人しか出演していない女優(黒沢あすか)さんが中央に出てきて、英才たちと対面して会話するお顔がみごとに澄んだ美しい表情になり(もともと美人だが)、その姿を凝視している間に、ありがたいことに痛みがどこかに飛んでいってしまった。それはさておき、われら一般庶民こそ戦争の犠牲になり、健気に生きていかねばならなかったんだなあと、二人の会話を聞きながら戦後すぐの子供のころを思い出した。すばらしい舞台をありがとう!　謝謝　劇団チョコレートケーキ殿

(マゴメ　ムラタ)

戦争に不可欠なゴム?!それを得ようとして、じわじわと、それぞれの思惑や妥協が絡み合い、無謀と分かっている本能に蓋をして、突き進むしかなかった当時の幹部たち。このようにして日本中を焦土と化し、最悪の広島、長崎への原爆投下に繋がったのですね。負けるとわかっていても、戦争に突き進んだ様子が充分想像できました。本当に、戦争は愚かで悲惨な行為です!最後に「どうすればよかったか?」に、それぞれが自分の考えを出し合うラストの場面、人の叡知を集めれば戦争は避けられたんだ!と涙が出てきました。

でも、大事なことは、戦争はしないこと!始まってしまったら終わりにできない。改めて、今の時代にはそのことを声を大にして言いたい!!ズシンと重たい作品でした。(亜童夢　伊澤　輝美)

ｱﾝｹｰﾄ枚数 26枚	(回収率2.4%)
当日会員数　1,446名	
例会参加者　1,098名	(参加率76.0%)

おめでとうございます!

「帰還不能点」サイン色紙当選者

1172　AHA9　　小林　文子さん
1483　くるくるサークル　吉野　洋子さん
1855　アプリコット　　三浦　文子さん

※当選した方は申し出てください。